

---

第28期(2019年度)SC経営士一次試験問題

# 商業一般

時間 45分 点数配分 75点

---

## 注意事項

1. はじめに、受験番号(4桁)・氏名・ふりがなを記入し、受験番号に該当する番号をマークしてください。
2. 回答はすべて、解答用紙(マークシート)に記入してください。
3. 各問題とも問題文の指示にしたがって、正解と思う番号を選び、解答用紙(マークシート)の解答欄にその番号をマークしてください。
4. 記入は必ず、HBもしくはBの黒鉛筆またはシャープペンシルで、○のなかを正確に塗りつぶしてください(ボールペンは不可)。
5. 訂正は、プラスチック製消しゴムできれいに消し、消し屑を残さないでください。
6. 解答用紙(マークシート)には所定の記入欄以外には記入しないでください。
7. 解答用紙(マークシート)は、汚したり、折り曲げたりしないでください。

## <記入上の注意>

・マークの仕方

[良いマーク]



[悪いマーク]

チェック



斜め



短い



細い



ハミ出し



薄い



小さい



一般社団法人 日本ショッピングセンター協会

【第1問】〈配点10点〉

(解答番号は  から )

次の  ~  の文章にあてはまる最も関連の深い語句を下記の語群から選び、解答欄にその番号をマークしなさい。

ITを駆使してさまざまな課題を解決し、顧客の購買体験を向上させている店舗のこと。トリアルカンパニーが一例としてあげられる。

語群

1	1. ディスカウントストア	2. ウェブストア	3. スマートストア	4. ポップアップストア
---	---------------	-----------	------------	--------------

レストランに劣らないクオリティの食事を、食品スーパーの店舗内で提供する業態。国内では、2017年(平成29年)にオープンしたトリエ京王調布で、成城石井が展開している。

語群

2	1. イートイン	2. サードプレイス	3. サードウェイブ	4. グローサラント
---	----------	------------	------------	------------

入場料をとる書店が、2018年(平成30年)12月に東京六本木にオープンした。閲覧室、研究室、喫茶室を併設し「本と出会うための本屋」をコンセプトにしている。

語群

3	1. 文喫	2. 漫喫	3. 本喫	4. コミュニティカフェ
---	-------	-------	-------	--------------

ロンドンの老舗百貨店「ハロッズ」が発祥といわれている。家族連れではなく、単身者や働く女性をターゲットとして、店舗を点在させるレイアウトに特徴がある。

語群

4	1. フードコート	2. 百貨店	3. スーパーレット	4. フードホール
---	-----------	--------	------------	-----------

ある施設の中で、その施設の所有権を事業主体が有したまま、事業主体とは別の事業者が一定期間、一部または全部の事業の運営権を取得し、営業活動をする事。

語群

5	1. コンバージョン	2. コンシェルジュ	3. コンセプション	4. コラボレーション
---	------------	------------	------------	-------------

【第2問】〈配点20点〉

(解答番号は  から )

次の文章は「昨今のライフスタイルや消費に関する、諸統計調査結果」に関する記述である。文中の空欄にあてはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、解答欄にその番号をマークしなさい。

総務省の家計消費状況調査によれば、2019年（平成31年）3月現在、ネットショッピング利用世帯の割合は  と昨年の同月に比べて5ポイント伸びている。またネットショッピング利用一世帯当たりの支出額は月間  である。

語群【6, 7】

6 7	1. 22.5%	2. 11,065円	3. 32.5%	4. 88,065円
	5. 42.5%	6. 33,065円	7. 12.5%	8. 55,065円

厚生労働省の厚生労働白書によれば、2018年（平成30年）時点で、共働き世帯は  世帯、専業主婦世帯は600万世帯となっている。1980年（昭和55年）からの推移をみると、  あたりを境に両者は逆転している。

語群【8, 9】

8 9	1. 1,519万	2. 1977年(昭和52年)	3. 1,219万	4. 1987年(昭和62年)
	5. 919万	6. 1997年(平成9年)	7. 719万	8. 2007年(平成19年)

総務省の労働力調査によれば、高齢就業者(65歳以上)の前年増減をみると、  の高齢化などを背景に2013年（平成25年）以降大きく増加している。2017年（平成29年）の高齢者就業率は、男性が 、女性が16.3%と、いずれも6年連続で前年に比べて上昇している。高齢就業者数を主な産業別にみると、  が125万人と最も多く、次いで農業・林業99万人、製造業92万人となっている。

語群【10～12】

10 11 12	1. ハナコ世代	2. 卸売業・小売業	3. 16.3%	4. バブル世代
	5. 42.8%	6. 1997年(平成9年)	7. 22.6%	8. サービス業
	9. 31.8%	10. 団塊ジュニア世代	11. 医療・福祉	12. 団塊世代

博報堂生活総研の生活定点調査（2018年（平成30年））によれば、「衝動買いをよくする」と答えた人の割合は  と前回調査からほぼ変化がなかった。男女差については  の方が7ポイント高く、年代別にみると  が38.3%で最も高く、逆に60代が19.9%と最も低い結果となった。

**語群【13～15】**

13	1. 26%	2. 男性	3. 36%	4. 10代	5. 16%
14					
15	6. 20代	7. 50代	8. 46%	9. 女性	10. 70代

【第3問】〈配点5点〉

(解答番号は  から )

次の文章は「コンビニエンスストア」に関する記述である。正しいものには1を、誤っているものには2を、解答欄にその番号をマークしなさい。

- 16 コンビニエンスストアにおけるパワーカテゴリー(動線長をもたらす商品群)は、生鮮3品および総菜である。
- 17 コンビニエンスストア業界では、多品種商品の高頻度少量対応の調達物流と時間帯指定の計画配送を特徴とする、ジャストインタイム物流を導入している。
- 18 コンビニエンスストア各社では、ドミナント出店をするため、地区ごとに自社で配送センターを持っているところが多い。
- 19 多くのコンビニエンスストアチェーンが導入しているフランチャイズシステムは、商品やノウハウを提供するフランチャイジーと、店舗を運営するフランチャイザーの関係が大きな特徴となっている。
- 20 コンビニエンスストアでは、POSシステムを活用して、販売管理や在庫管理をSKUレベルで行う、単品管理手法を採用している。

**【第4問】〈配点10点〉**(解答番号は  から )

次の文章は「サブスクリプションサービス」に関する記述である。文中の空欄にあてはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、解答欄にその番号をマークしなさい。

サブスクリプションサービスは、日本語で「 利用」などと呼ばれる。企業が製品やサービスを売り切るのではなく、消費者に  料金を貸し出すサービスである。例えば、アマゾンは、 を立ち上げ、サブスクリプションモデルのパワーを活かして、売上高を飛躍的に増加させた。背景には、 に代表される、近年の「所有から  へ」という消費傾向がある。

顧客にとっては、サブスクリプションだと、買うか買わないかの判断を一度だけすればよいので、「お金を払うときの苦痛」を何度も味あわずに済むというメリットがある。一方、企業にとっては、一定の収入を継続的に得られることと、顧客との  関係を築けるというメリットがある。

**語群【21～25】**

21	1. アマゾンエフェクト	2. 定額	3. フェアトレード
22	4. 体験	5. 長期的	6. アマゾンプライム
23	7. 会員	8. 貯蓄	9. シェアリングエコノミー
24	10. 家族的	11. アマゾンゴー	12. 限定
25	13. エシカル	14. 利用	15. 人間

【第5問】〈配点10点〉

(解答番号は  から )

次の文章は「流通業の計数」に関する記述である。文章の空欄にあてはまる最も適切な数字を下記の語群から選び、解答欄にその番号をマークしなさい。

一品単価1,500円、一人当り買上点数3点、買上客数100人、粗利益率25%の場合、売上高は  円である。

語群

26	1. 450,000	2. 112,500	3. 150,000	4. 600,000
----	------------	------------	------------	------------

粗利益高2,500,000円、総労働時間500時間、100坪の売場における人時生産性は  円である。

語群

27	1. 25,000	2. 5,000	3. 10,000	4. 50,000
----	-----------	----------	-----------	-----------

売上高1,000万円、平均在庫高(売価)250万円、粗利益高300万円の場合、商品回転率は  回である。

語群

28	1. 3.3	2. 4	3. 2.2	4. 2.5
----	--------	------	--------	--------

売上高2,000万円、固定費600万円、変動費1,200万円の場合、損益分岐点比率は  %である。

語群

29	1. 100	2. 85.7	3. 75	4. 90
----	--------	---------	-------	-------

売上高300万円、原材料費96万円、人件費84万円、家賃18万円、水道光熱費15万円の飲食店の場合FLコストは  %である。

語群

30	1. 71	2. 66	3. 60	4. 32
----	-------	-------	-------	-------

【第6問】〈配点20点〉

(解答番号は  から )

次の財務諸表（損益計算書、貸借対照表）および文章の空欄にあてはまる最も適切な語句や数字を下記の語群から選び、解答欄にその番号をマークしなさい。欄にその番号をマークしなさい。

損益計算書

		単位：百万円
I	売上高	1,500,000
II	売上原価	1,085,000
	売上総利益	<input type="text" value="31"/>
III	販売費及び一般管理費	
	<input type="text" value="32"/>	110,000
	販売費	150,000
	減価償却費	<input type="text" value="33"/>
	その他費用	100,000
	営業利益	25,000
IV	営業外収益	
	受取利息・配当金	20,000
	雑収入	4,000
V	営業外費用	
	支払利息	5,000
	雑損失	1,000
	経常利益	<input type="text" value="34"/>
VI	特別利益	2,000
VII	特別損失	2,800
	税引前当期利益	42,200
	法人税等	16,880
	当期純利益	25,320

語群【31～34】

31	1. 49,000	2. 44,000	3. 43,000	4. 30,000
32	5. 25,000	6. 20,000	7. 435,000	8. 415,000
33				
34	9. 405,000	10. 人件費	11. 売上割引	12. 固定資産売却損



○この企業の売上原価率は  %である。

○この企業の粗利益率は  %である。

○この企業の営業利益率は  %である。

○この企業の経常利益率は  %である。

**語群【35～38】**

35	1. 72.3	2. 38.2	3. 52.3	4. 29.7
36	5. 27.7	6. 21.7	7. 2.9	8. 1.7
37				
38	9. 1.3	10. 3.9	11. 2.3	

資産の部		負債の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
<b>I 流動資産</b>		<b>I 流動負債</b>	
現金預金	105,000	支払手形	1,000
売掛金	18,500	買掛金	80,000
有価証券	40,000	39	4,000
40	75,000	未払金	30,000
その他流動資産	30,000	未払費用	10,000
<b>流動資産合計</b>	<b>41</b>	<b>流動負債合計</b>	<b>125,000</b>
<b>II 固定資産</b>		<b>II 固定負債</b>	
<b>有形固定資産</b>		長期借入金	10,000
建物	120,000	社債	120,000
構築物	8,000	退職給与引当金	36,000
車両運搬具	400	<b>固定負債合計</b>	<b>166,000</b>
42	13,000	<b>負債合計</b>	<b>291,000</b>
土地	150,000		
<b>有形固定資産合計</b>	<b>291,400</b>	<b>純資産の部</b>	
<b>無形固定資産</b>		<b>I 株主資本</b>	
借地権	3,000	資本金	48,000
ソフトウェア	3,400	資本剰余金	
<b>無形固定資産合計</b>	<b>6,400</b>	資本準備金	100,000
		その他資本剰余金	1,000
<b>投資その他の資産</b>		<b>資本剰余金合計</b>	<b>101,000</b>
投資有価証券	11,700	利益剰余金	
関係会社株式	154,000	利益準備金	10,000
長期差入保証金	300,000	別途積立金	500,000
<b>投資その他資産合計</b>	<b>465,700</b>	繰越利益剰余金	80,000
<b>固定資産合計</b>	<b>763,500</b>	<b>利益剰余金合計</b>	<b>590,000</b>
		<b>株主資本合計</b>	<b>739,000</b>
		<b>II 評価・換算差額等</b>	<b>2,000</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>43</b>
<b>資産合計</b>	<b>44</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,032,000</b>

語群【39～44】

39	1. 創立費	2. 開業費	3. 棚卸資産
40	4. のれん	5. リース債務	6. 短期借入金
41	7. 特別修繕積立金	8. 什器備品	9. 社債発行費
42			
43	10. 1,032,000	11. 268,500	12. 741,000
44	13. 737,000	14. 248,500	15. 1,025,600

○この企業の流動比率は  %で、  は 。

○この企業の固定比率は  %で、長期の支払い能力は問題ない。

○この企業の自己資本比率は  %で、  は良い。

**語群【45～50】**

45	1. 214.8	2. 26.0	3. 103.0
46	4. 262.4	5. 74.0	6. 71.8
47	7. 97.1	8. 長期の収益性	9. 短期の収益性
48			
49	10. 短期の支払い能力	11. 良い	12. 悪い
50	13. 資本の健全性	14. 生産性	

